

- 問1 北海道の内陸部に位置する地域の気候の特徴について、ある地点の統計を確認したところ、1月の平均気温がマイナス20度近くまで下がり、年間のすべての月において降水量が100mm未満という非常に少ない数値を示していました。この地域の気候について正しく述べたものはどれですか。
。（2019年 富山県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------------------|---|---------------------------------------|--|
| 1. 冬の寒さが極めて厳しく、夏は冷涼で、年間を通して降水量が少ない。 | 2. 対馬海流の影響を強く受けるため、冬に雪が多く、年間降水量が2000mmを超える。 | 3. 季節風の影響で冬の降水量は多いが、夏は太平洋高気圧の影響で乾燥する。 | 4. 夏に「やませ」と呼ばれる冷たい北東風の影響を強く受け、夏でも霧が発生しやすい。 |
|-------------------------------------|---|---------------------------------------|--|
- 問2 北海道の十勝平野などで行われている、同じ土地に異なる種類の作物を数年ごとに順序立てて栽培する「輪作」の目的として、最も適切な説明はどれですか。
。（2018年 長野県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------------------|--|---|---|
| 1. 特定の病害虫の発生を抑え、土壌の肥沃さを維持して連作障害を防ぐため。 | 2. ビニールハウスなどの施設を利用して成長を早め、出荷時期をずらし、収穫を上げるため。 | 3. 機械化による作業効率を向上させるため、1つの農地で1種類の作物のみを栽培し続けるため | 4. 1年間に同じ土地で2種類の作物を栽培し、土地の利用効率を最大限に高めるため。 |
|---------------------------------------|--|---|---|
- 問3 東京都から各道県への旅客輸送に関する統計において、ある道県は鉄道の利用者が約19万人であるのに対し、航空機の利用者が約627万人と突出して多くなっています。この統計が示す道県の名称と、航空機の利用割合が極めて高い理由の組み合わせとして最も適切なものを次から選びなさい。
。（2022年 栃木県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 道県名は北海道であり、東京都からの移動距離が長い。所要時間の短い航空機が優先的に選択されているから。 | 2. 道県名は新潟県であり、山岳地帯を通過する鉄道よりも、直線的に移動できる航空機の方が効率が良いから。 | 3. 道県名は大阪府であり、ビジネス客の利便性を高めるために航空路線の便数が鉄道の運行本数を上回っているから | 4. 道県名は北海道であり、青函トンネルが貨物専用となっており、旅客が鉄道で海を渡ることができないから。 |
|---|--|--|--|
- 問4 北海道の北東部に位置し、冬になるとシベリア沿岸から流れてきた「流氷」が網走や紋別、知床半島の沿岸に押し寄せることで知られる海域の名称を選びなさい。
。（2025年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|--------|--------|-----------|
| 1. 東シナ海 | 2. 日本海 | 3. 太平洋 | 4. オホーツク海 |
|---------|--------|--------|-----------|
- 問5 1890年代後半から現代にかけての石狩川流域における土地利用の変化について説明した文として、最も適切なものはどれですか。
。（2021年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 泥炭地と呼ばれる湿地は、地盤沈下を防ぐ目的から、明治時代と同じ面積が現在も維持されている | 2. かつて広大だった農地が、自然保護の観点から国主導で大規模な湿地へと復元された | 3. 市街地を拡大させるため、もともと存在した森林をすべて取り除き、大規模な泥炭地へと造り替えた | 4. 明治時代には流域の大部分を占めていた湿地が、開発とともに減少し、農地や市街地へと変化した |
|---|---|--|---|
- 問6 北海道には古くから独自の文化を築いてきた先住民族が居住しており、現在の札幌をはじめとする道内の多くの地名は彼らの言葉に由来しています。この民族を何と呼びますか。
。（2019年 静岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|-----------|----------|---------|
| 1. 琉球民族 | 2. ウィルタ民族 | 3. アイヌ民族 | 4. 大和民族 |
|---------|-----------|----------|---------|
- 問7 北海道の知床半島を含む東部地域では、夏季に「濃霧」が発生し、視界が悪くなったり気温が上がりにくくなったりすることがあります。この霧が発生する仕組みについて、海面を流れる潮の流れ（海流）と季節風の関係を説明したものとして最も適切なものはどれですか。
。（2026年 島根県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. オホーツク海から吹き込む冷たい風が、陸地の熱によって上昇気流となり、雲を作ることで発生する。 | 2. 日本海から吹き込む湿った季節風が、暖流である対馬海流によって冷やされることで発生する。 | 3. 太平洋から吹き込む湿った季節風が、寒流である親潮（千島海流）によって冷やされることで発生する。 | 4. 太平洋から吹き込む乾いた季節風が、暖流である黒潮（日本海流）によって温められることで発生する。 |
|---|--|--|--|
- 問8 北海道の酪農において、近年の統計で見られる「飼育戸数が減少しているにもかかわらず、全体の生乳生産量が増加している」という現象の背景にある、生産体制の工夫を説明する用語の組み合わせとして正しいものはどれですか。
。（2021年 熊本県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------------|--------------|----------------|----------------|
| 1. 地産地消と手作業の重視 | 2. 減反政策と多角経営 | 3. 施設園芸農業と有機栽培 | 4. 経営規模の拡大と機械化 |
|----------------|--------------|----------------|----------------|
- 問9 知床で行われている、自然環境の保全と観光利用の両立を目指す「エコツーリズム」の考え方にに基づいた具体的な取り組みとして、不適切なものはどれですか。
。（2022年 栃木県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 自動車による排気ガスや騒音、渋滞を抑えるために、一部区間で車両の乗り入れを規制する。 | 2. 希少な植物を踏みつけないよう、散策路を限定したり木道を整備したりする。 | 3. 地域の自然に詳しいガイドが同行し、ルールを守りながら自然を深く理解してもらうツアーを実施する。 | 4. 自然環境を保護しつつ、さらに多くの観光客を誘致するために、山頂まで通じる新しい高速道路を建設する。 |
|---|--|--|--|
- 問10 日本の諸地域の特徴をまとめた統計において、人口が約532万人であり、豊かな自然環境を背景に宿泊施設の延べ宿泊者数が約356万人、温泉地数が244箇所と全国的にも上位に位置する一方で、国宝の指定件数が1件にとどまっている地域はどこですか。
。（2023年 福岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 中部地方 | 2. 九州地方 | 3. 関東地方 | 4. 北海道地方 |
|---------|---------|---------|----------|
- 問11 北海道東部の根釧台地において、稲作ではなく酪農が盛んに行われている理由として、その土地の自然環境について正しく説明しているものはどれですか。
。（2018年 長野県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 火山灰が堆積した土地で水持ちが悪く、大規模な灌漑施設を整備して水田を開発することが困難であったため | 2. 広大な平坦地が広がり、大型機械を用いた大規模な小麦や大豆の栽培に特化した方が効率的であったため | 3. 年間を通じて温暖で降水量が少なく、乳牛の病気を防ぐために乾燥した土地を利用する必要があったため | 4. 夏でも気温が上がりにくく霧が発生しやすい寒冷な気候であり、作物の栽培よりも牧草の生育に適しているため |
|--|--|--|---|
- 問12 北海道の稚内や知床といった地名は、ある人々の言語に由来しています。これらの地名の元となった言語を使用していた、北海道の先住民族を何と呼びますか。
。（2015年 佐賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|------------|--------|----------|
| 1. 縄文人 | 2. 蝦夷（えみし） | 3. 弥生人 | 4. アイヌ民族 |
|--------|------------|--------|----------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 冬の寒さが極めて厳しく、夏は冷涼で、年間を通して降水量が少ない。	北海道の内陸部は、海から遠く離れているために海による気温調節機能が働かず、放射冷却現象などの影響で冬の気温が極端に低くなります。また、周囲を山々に囲まれていることから、海からの湿った空気が入り込みにくく、日本海側などの沿岸部と比較しても年間降水量が少なくなるのが特徴です。
問2	答え 1 特定の病害虫の発生を抑え、土壌の肥沃さを維持して連作障害を防ぐため。	同じ土地で同じ作物を繰り返し栽培し続けると、特定の病害虫が発生しやすくなったり、土壌の養分が偏ったりして作物の育ちが悪くなる「連作障害」が発生します。これを防ぐために、豆類、小麦、てんさい、じゃがいもといった性質の異なる作物を順番に植え替えることで、土地の生産性を維持しています。
問3	答え 1 道県名は北海道であり、東京都からの移動距離が長いこと、所要時間の短い航空機が優先的に選択されているから。	東京都から北海道への移動は、距離が非常に長く時間がかかるため、新幹線などの鉄道よりも高速な航空機が選ばれる傾向が顕著です。一般に、交通手段の選択においては「4時間の壁」と呼ばれる基準があり、鉄道（新幹線）での所要時間が4時間を超える場合、航空機のシェアが圧倒的に高くなります。新潟県や大阪府は東京都からの距離が比較的近く、鉄道（新幹線）の利用割合が高い地域であるため、提示された統計データには合致しません。
問4	答え 4 オホーツク海	北海道の北東側に位置するこの海域は、シベリアのアムール川から流れ込む淡水の影響で塩分濃度が低くなり、冬の厳しい寒さによって海水が凍り、流氷が形成されます。網走や紋別では観光船による流氷見学が盛んであり、知床半島は流氷がもたらす栄養分によって豊かな生態系が保たれていることから世界自然遺産に登録されています。
問5	答え 4 明治時代には流域の大部分を占めていた湿地が、開発とともに減少し、農地や市街地へと変化した	石狩川流域の変遷を見ると、明治時代（19世紀末）には非常に広い面積を占めていた湿地が、昭和から平成へと時代が進むにつれて大幅に減少していることがわかります。この変化は、北海道の開拓に伴って湿地の排水・土地改良が進められた結果であり、湿地だった場所は食料供給を支える農地や、札幌市などの都市を支える市街地へと転換されてきました。
問6	答え 3 アイヌ民族	アイヌ民族は北海道の先住民族であり、自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の精神文化や言語を持っています。北海道にある多くの地名は、彼らが地形や動植物の特徴を表現した言葉が語源となっており、例えば札幌（サッポロ）は「乾いた大きな川」を意味するアイヌ語の『サツ・ポロ・ベツ』に由来しています。
問7	答え 3 太平洋から吹き込む湿った季節風が、寒流である親潮（千島海流）によって冷やされることで発生する。	夏季の北海道東部では、南東の太平洋側から湿った季節風が吹き込みます。この風が、千島列島から南下してくる非常に水温の低い寒流である「親潮」の上を通る際、空気の温度が急激に下げられます。これによって空気中に含まれていた水蒸気が凝結して細かい水滴となり、濃い霧が発生します。この仕組みは、暖かい空気が冷たい海面に触れることで生じるため「移流霧」と呼ばれ、現地の農業や交通に影響を与えます。
問8	答え 4 経営規模の拡大と機械化	酪農家1戸あたりの飼育頭数を増やして効率を上げる「経営規模の拡大」と、搾乳ロボットなどの導入による「機械化」が組み合わせることで、労働負担を軽減しながら高い生産性を確保しています。統計上でも、100頭以上の大規模な飼育戸数の増加や、搾乳ロボットの普及率の劇的な上昇にその傾向が表れています。
問9	答え 4 自然環境を保護しつつ、さらに多くの観光客を誘致するために、山頂まで通じる新しい高速道路を建設する。	エコツーリズムとは、地域の自然や文化の価値を伝え、その保全に責任を持ちながら観光を行う仕組みです。知床では、過去に道路の開通が自然環境への負荷を増大させた経緯があるため、新たな大規模な道路建設などの開発は、環境保全と観光の両立という方針に反します。
問10	答え 4 北海道地方	北海道は、広大な土地と豊かな自然資源を活かした観光業が盛んで、温泉地数や宿泊者数は全国有数の規模を誇ります。一方で、明治時代以降の開拓が歴史の中心であるため、近世以前の文化財を中心とする国宝の指定件数は、古くからの歴史を持つ他の地方に比べて少ない傾向にあります。
問11	答え 4 夏でも気温が上がりにくく霧が発生しやすい寒冷な気候であり、作物の栽培よりも牧草の生育に適しているため	根釧台地などの北海道東部は、夏に千島海流（親潮）の上を通る湿った空気が冷やされて「移流霧（海霧）」が発生し、日照不足と低温をもたらします。この気候は稲作には不向きですが、寒冷な気候でも育つ牧草の生産には適しています。そのため、その牧草を飼料として乳牛を育てる酪農が、地域の特色ある産業として定着しました。
問12	答え 4 アイヌ民族	北海道には古くから、独自の文化を持つ先住民族であるアイヌの人々が暮らしてきました。現在でも北海道の多くの地名は、彼らの言語である「アイヌ語」に由来しています。例えば「稚内」はアイヌ語で「冷たい水の出る川」という意味の言葉に由来するなど、地域の自然の特徴が名前に反映されていることが多くあります。